

月例会「長期予報と大気大循環」のご案内と講演募集のお知らせ

近年下部成層圏の気温が低下していることがいわれています。また南極のオゾンホールはここ数年、毎年のように過去最大規模で推移しています。これらの成層圏の最近の動向は興味を持たれるところです。またいうまでもなく、対流圏の循環にも成層圏は重要な役割を果たしています。今年はこの「成層圏」をメインテーマとして標記月例会を開催します。講演を希望される方は下記の要領でご応募下さい。また、メインテーマ以外でも大気大循環、長期予報に関係するものであれば歓迎します。なお、1講演あたりの講演時間は30分程度を予定しています。また、講演をしていただいた方には原則として講演内容を「グロスベッター」に執筆していただきますのであらかじめご了承願います。

記

日時 1996年9月26日(木) 13時30分～17時

場所 気象庁第一会議室(5F)

メインテーマ 「成層圏と大気大循環」

申し込み方法 講演者氏名、所属、講演題目、講演要旨(400字以内)を添えて申し込んで下さい。

申込先・問い合わせ先

〒100 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁長期予報課(7月より気候情報課)

LFグループ事務局(藤川典久)

TEL 03-3212-8341 (EX. 3158)

FAX 03-3201-0682 (気象庁総務課)

E-mail lfd_diag@hq.kishou.go.jp

申し込み締め切り 1996年7月31日(水)

編集後記: 昨年4月に編集委員の一人に加えていただき、1年が過ぎました。この間校正の仕事をさせていただきましたが、至らぬ所多く、読者の皆さんには読みづらい所が多かったのではないかと、反省することしきりです。

さて、この4月の転勤に伴い、校正の仕事を離れて新しい仕事を担当させていただくことになりました。

気象学会には色々な立場の方が会員として参加されていますが、会員の多様性に対して、「天気」は応えられているかという議論が編集委員会内にあります。投稿記事にしても、こちらから依頼して書いていただいた記事にしても、往々にしてその書き手は、大都市在住者や大組織の一員であることが多く、また、読み手にもそういう方々を想定して書かれているようであり、ところが、そういう所には属さない方々も当然、多数いらっしゃるわけで、この方たちの想いというものをすくいにとって、「天気」の紙面に反映させることも

編集委員会の重要な仕事です。

ということで、編集委員会に新規の担当職を1つ設けさせていただき、それが私のこれからの仕事になったわけであり、その担当職名は「新企画開発」というもので、前述のような問題点を踏まえて紙面をより面白いものにする方策を考えさせていただくことになりました。

現在考えていることは、地方在住の気象技術者の方や、気象教育に携わっておられる方々の日々の仕事を反映したような紙面を作れないかということです。また、気象予報士の方々にも読んでいただける内容を盛り込んでいきたいとも思っております。

ただ、私をはじめ編集委員のメンバーだけでは思いつくことにも限りがありますので、会員の皆さんの意見や希望・批判を広く求めております。どうか、「天気」をより良くするために学会事務局まで意見をお寄せ下さい。(別所康太郎)